

授業改善プラン

1 年 教科 (技術科)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
関心意欲態度	意欲的に作業に取り組む生徒が多い。生徒同士で協力する場面も見られる。	作品の製作を通して、ものをつくる楽しさを実感できるような授業を行う。	授業を進めるにつれて、興味関心が高まり、自身の作る製品に愛着を持たせることができた。
創意工夫	ものづくりに対して意識が高いが、構想や設計に関する力は弱い。その為、なかなか作業に移れない生徒もいる。	授業にて理論を学習し、生徒が主体的に学び、体験や実習を重視する。	製作終了後の構想で、より一層の工夫をしようとする、姿勢が感じられた。
生活の技能	基本的な工具の使い方を学習しておらず、一つひとつ慎重に学習させていく必要がある。	実践的・体験的な学習を多く取り入れる。	プラン通り実施することができた。
知識理解	復習や繰り返しの取り組みが少ない傾向がみられる。	確認テストを行い、基礎的事項の定着度を確認する。	例年と比べ、寸法記入の定着率が非常に高まった。語彙力の向上に課題が残る。
授業改善の検証方法	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	今までの知識・技能・ 経験の生かせる授業の 展開。	より考え、主体的に学 習することのできる環 境づくり。	主体的に学習させるこ とができた。

授業改善プラン

2年 教科（技術科）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
関心意欲態度	授業の決まりを守り、意欲的に取り組む生徒が多く、落ち着いた授業となっている。	興味や関心をさらに高めるため、実生活に即した教材研究および授業展開を行い、各単元ごとのねらいを明確化する。	自由度の高い教材を使い、生徒の興味関心を高めることができた。
創意工夫	自ら進んで問題を解決しようとする姿勢は見られるが、その解決策や技術を日常生活に活用しようとする能力に差がみられる。	生活を豊かにするための作品づくりや課題を考えさせ、製作計画など自分なりに工夫させる。	プラン通り実施することができた。
生活の技能	実技に関して、積極的な生徒が多く見受けられるが、消極的な生徒も少数見受けられる。	工具の使い方に関して基礎的・基本的なことを学ぶ。特に取り扱いについては重点的に指導する。	プラン通り実施することができた。
知識理解	家庭での学習が定着していないことから、基本的・基礎的な学習内容の定着が不十分である。	興味・関心を高めるためのプリント作成や、自ら取り組める調べ学習を通して自学自習を習慣づけさせる。	語彙力の向上に課題が残る。
授業改善の検証方法	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	今までの知識・技能・ 経験の生かせる授業の 展開。	より考え、主体的に学 習することのできる環 境づくり。	主体的に学習させるこ とができた。

授業改善プラン

3年 教科 (技術科)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
関心意欲態度	「関心・意欲・態度」に優れ、作品製作に集中して取り組んでいる。	興味や関心をさらに高めるため、実生活に即した教材研究および授業展開を行い、各単元ごとのねらいを明確化する。	母校へ有用な製品を残したいとの思いが生徒の興味関心を高めていた。
創意工夫	技術を日常生活に活用しようとする能力に差がみられる。	生活を豊かにするための製品づくりや課題を考えさせ、製作計画など自分なりに工夫させる。	プラン通り実施することができた。
生活の技能	授業が隔週であるため、実習が、作業説明の2週間後となる。	初期の集中的な基礎技能習得とデモンストレーション、プリントの活用、班活動を重視した計画で、1時間の授業の中で作業が完結できるよう計画し、実践を試みる。	プラン通り実施することができた。
知識理解	学習意欲が高く、基本的・基礎的な学習内容の定着がしている。	発展的な内容についての理解をより深めていく。	概ねの知識を習得させることができた。具体的な実践の場が必要と感じる。
授業改善の検証方法	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子	定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	今までの知識・技能・ 経験の生かせる授業の 展開。	より考え、主体的に学 習することのできる環 境づくり。	主体的に学習させるこ とができた。